

支援を受けたチャイルドのストーリー

支援のおかげで早婚の危機から救われ、
教育を受けることができました

オレントン地域で生まれ育ったピュリティさんは、小学校6年生の時にこの地域の伝統的な慣習である「女性器切除*(FGM)」を受け、70歳の男性と結婚するよう親に命じられました。しかし、ワールド・ビジョンのスタッフから、女性器切除(以下、FGM)がもたらすリスクや学校を続けることの重要性について聞いていたため、この命令を拒みました。そして、ワールド・ビジョンが支援する「救出センター」に保護され、学校に通い続けることができました。

8年間の小学校教育を終えた後、高校を優秀な成績で卒業**し、現在は大学で教育学を学んでいるピュリティさん。「皆さまのご支援なくして、今の私はありません。同じように、支援がなければ置かれた状況から抜け出せない女の子たちがまだいます」と話しています。「将来は、かつての自分のような女の子を助けるプログラムを立ち上げたい」という夢を持って、大学での勉強に取り組んでいます。

* FGM(Female Genital Mutilation)という、女の子が「成人」として認められるための伝統的な通過儀礼。麻酔や消毒をせずに刃物で女性器に傷をつけることから激痛と感染症のリスクを伴い、女の子にとって心身に傷を残す。出産時の合併症を引き起こす原因ともなる。ケニアでは法的に禁止されているが、農村部ではいまだに行われており、早婚とともに大きな課題となっている。

** ケニアでは8年間の小学校の後は4年間の高校が続く。



★ 「将来は、かつての自分のような女の子を助けてたい」と話すピュリティさん(22歳)

オレントン地域開発プログラム マネージャーよりごあいさつ

チャイルド・スポンサーシップを通じてオレントン地域開発プログラム(以下、ADP)をご支援くださり、ありがとうございます。皆さまの長年にわたるご支援によって、地域には様々な変化がもたらされました。学校の教育環境が改善し、学校に入学し勉強を続ける子どもたちが以前よりも増えました。また、地域の大きな課題であったFGMの廃絶に向け、住民の意識改革のための啓発活動を続けてきた結果、FGMを受ける女の子は大幅に減りました。保健の分野でも、予防接種を受ける子どもが増えたり、母親たちが子どもの健康管理についての知識を身につけるなど、大きな成果がありました。安全な水を手に入れる住民も増えています。

貧困に起因する多くの問題が山積していたオレントン地域ですが、皆さまのご支援によって、子どもたちが教育を受け、健康に成長できるより良い場所へと変化を遂げることができました。変化への長い道のりをともに歩み、支えて下さった日本の皆さまに、心よりお礼申し上げます。



オレントン地域開発プログラム
マネージャー
シニーナ・シャニ

15年間のご支援により、人々が

教育

学習環境が改善し、
就学率も向上



新しい校舎が建設されたことにより、雨風や砂ぼこりを気にせず、子どもたちが勉強に集中できる学習環境が整いました

保健・HIV/エイズ対策

子どもの健康状態が
改善



子どもたちが予防接種を受け、病にかからず健康に成長できるようになりました

成果

■ 就学率

72.1% (2004年) **》 81.0%** (2016年)

これまでに小学校と高校あわせて30校に支援を届けてきました。子どもたちが勉強に集中できるように、教室建設や机・イスなどの備品の提供を行い、学習環境を整えてきました。また、教員や学校運営委員会への研修を通じて、子どもの権利保護や教育の質の向上に取り組んできました。保護者に対して教育の重要性を訴える活動を続けてきたこともあり、今は高校・大学に進学する生徒も増え、より多くの子どもたちが夢を持って学校での勉強に励んでいます。

| 支援内容 | 数量 |
|---------|------|
| 教室建設 | 15教室 |
| 寄宿舎建設 | 5棟 |
| 教員用住宅建設 | 6棟 |
| 机・イス | 570脚 |
| 雨水貯水タンク | 50基 |

支援前：子どもたちが以前学んでいた校舎。

壁は朽ちかけ、土の床からは砂ぼこりが立ちやすい状態でした



成果

■ 5歳未満児の 予防接種率

31.4% (2004年) **》 65.3%** (2016年)

■ 5歳未満の 低体重児の 割合

20.3% (2008年) **》 10.0%** (2016年)

住民を戸別訪問して健康状態を確認し、母子保健や栄養などについての教育を行う地域保健ボランティアを育成しました。地域保健ボランティアの地道な活動により、5歳未満児の予防接種率が向上し、栄養状態も改善しました。また、HIV感染の予防のため、ピア・エデュケーター*育成、宗教指導者や学校の教員への研修、感染予防対策や差別・偏見をなくすための啓発活動、HIV検査受診の促進を行いました。この結果、住民一人ひとりがより健康的な生活を送れるようになってきています。同時に、エイズで親を亡くした子どもたちやHIV感染者、合計約1,600人に学費支援や職業訓練などの支援も行いました。

* 同じような価値観をもつ同年代の仲間(ピア)として、HIV/エイズに関する情報を提供するボランティア

保健スタッフの診察を受ける女の子。

医療サービスが改善し、子どもの健康が守られています



変わり、地域が変わりました。



女性の地位向上

女性の権利が守られ、社会で生き生きと活躍できるようになりました



FGMに替わる通過儀礼として、郡の指導者からライフ・スキル研修の修了証書を受け取る女の子



水衛生

きれいな水が家の近くで手に入るようになりました



水源を整備したことで、きれいな水を使用できるようになりました

成果

- FGMを受ける女の子の割合 97.5% (2007年) **》 25.0%** (2016年)
- FGMは良くない慣習だと答える人の割合 44.7% (2007年) **》 70.4%** (2016年)
- 小学校を卒業する女の子の割合 48.0% (2009年) **》 61.0%** (2016年)

FGM廃絶に向けて、地域のリーダーや住民、10代の女の子を対象に啓発集会を開催し、FGMの負の影響を訴えてきました。ADPの活動期間中に、合計2,000人以上の女の子がFGMを拒否し、FGMに替わる成人への通過儀礼として、ライフ・スキル*研修を受け、郡の指導者から修了証書を受け取りました。また、FGMを受け早婚を強いられた女の子に対しては、女子寮完備の学校で学業の継続ができるように支援を行ってきました。FGMの悪影響を多くの住民が認識するようになった結果、FGMや早婚を強要される女の子は減少し、女の子も将来の夢に向かって学業を継続できるようになってきています。

* 問題解決、対人関係、計画性など、生きていく上で必要な知識・技術

伝統を重んじるマサイ族



成果

- 家にトイレがある世帯の割合 15.8% (2008年) **》 50.7%** (2016年)
- 雨期に徒歩30分以内で水を手入れできる住民の割合 27.4% (2008年) **》 70.2%** (2016年)

生きるために毎日欠かさず必要な水。支援開始前は、大多数の住民が水を得るために遠くまで歩き、汚れた川の水を飲料水や生活用水として使用していました。また、汚れた水が原因で、下痢などの病気が頻繁に発生していました。ADPでは、水源の整備や貯水タンクを設置し、近隣できれいな水が手に入るように支援を行いました。また、水源の維持管理を行う水管理委員会を10グループ結成し、住民自身が継続的に水源を清潔に保ち、使い続けられるような体制も整えました。130世帯でトイレを建設し、さらにトイレの使用や手洗いなどの衛生習慣についての研修も行い、住民自身が病気の脅威から身を守れるようになりました。

支援前: 管理されていない不衛生な水たまりで洗濯をしていました



皆さまとともに歩んだ15年間 — たくさんの笑顔が生まれました



World Vision

この子を救う。未来を救う。

支援地域の当初の主な課題

- 【 教 育 】 学習環境が整っていない。保護者の教育の重要性への認識が低いため、子どもの就学率が低い。
- 【 保 健 】 医療環境の未整備や住民の知識不足により、予防可能な病気にかかる人が多い。
- 【女性の地位】 FGMや女子の早婚など、地域の伝統的な慣習が女子の学業継続や社会進出の障壁になっている。
- 【 水 衛 生 】 安全な水の入手が困難。トイレが未普及で野外排泄が広く行われており、衛生状態が悪い。



準備期 (2003年度-2004年度)

- 現地の状況調査
- 事業計画立案、事業実施体制の整備
- 地域政府や住民との相互理解・関係構築



チャイルド・スポンサーシップについての住民向け説明会(2004年)

第1期 (2005年度-2008年度)

- 小学校の教室や寄宿舎の建設、机・イスなどの備品支援(第1~3期まで継続)
- HIV/エイズについての啓発活動、エイズで親を亡くした子どもの支援、ピア・エデュケーター育成(第1~3期まで継続)
- FGM廃絶に向けた啓発活動、FGMや早婚のリスクにさらされた女子の保護、FGMに替わる儀式への参加促進(第1~3期継続)
- 井戸の掘削、溜池建設、雨水貯水タンクの設置および水管理委員会の組織化
- 衛生指導、簡易トイレの設置促進



机の提供を受け、喜ぶ生徒たち(2006年)



支援で設置された井戸からきれいな水を汲む住民(2007年)

第2期 (2009年度-2012年度)

- 学校運営委員会や教員に対する学校運営や教育の質向上のための研修(第2~3期まで継続)
- 学校の水供給システムや衛生施設の改善
- 水管理委員会の組織や能力強化
- 地域保健ボランティアの育成



小学校に建設されたトイレ(2011年)



小学校に設置された水タンク(2011年)

第3期 (2013年度-2017年度)

- 就学前教育の充実
- 子どもを対象としたライフ・スキル研修実施
- 地域保健ボランティアの能力強化研修と活動継続のための収入向上活動支援
- 保健省と協働での巡回診療、保健・栄養の啓発活動
- 住民グループに対する、子どもの保護、生計向上、貯蓄貸付組合、組織能力強化などについての研修



地域の人々の健康管理を推進する保健ボランティア(2014年)



ADPの収入向上活動支援を受けた住民グループ(2015年)

地域の代表者からのごあいさつ



ベンソン・ンゴティエクさん(オレントン地域内のイレカイギ地区の地区長)

オレントン地域では、FGMや早婚、児童労働など、子どもにとって良くない慣習が広く行われていました。しかし、ワールド・ビジョンの啓発活動を通じてFGMの悪影響について知り、このような昔ながらの慣習をいつまでも続けていては地域は発展しないと考えました。そこで、郡の長官をはじめ保護者や教会の代表者、政府機関の責任者を招いて、子どもたちのために地域で何が出来るかを話し合いました。この結果、この地区では過去2年間で、100人の女子生徒を早婚の危機から救うことができました。救出された女子生徒の中には、初等教育を無事修了し、高校へ進学した者もいます。私たちの考え方や行動を変えるきっかけを与えてくれたワールド・ビジョンの支援に、心より感謝しています。

いっしょに幸せになろう。
チャイルド・
スポンサーシップ

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話: 03-5334-5351 FAX: 03-5334-5359 e-mail: dservice@worldvision.or.jp ホームページ: www.worldvision.jp
ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しています。ホームページにぜひお立ち寄りください。